

(様式2)

令和 3 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1590101075		
法人名	社会福祉法人 遊生会		
事業所名	高齢者グループホーム まいらいふみずぎ野		
所在地	新潟市西区みずぎ野1丁目15番22号		
自己評価作成日	令和4年1月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/15/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人新潟県社会福祉士会 外部評価機関「あいエイド新潟」		
所在地	新潟市中央区上所2-2-2 新潟ユニゾンプラザ3階		
訪問調査日	令和4年3月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

新興住宅地の中に立地し、周辺には整備された散歩道や自然豊かな公園があります。近くに大学もあり、駅から大学への道沿いに施設があるため、窓越しに通学生に挨拶をされている利用者もいます。誰もが自分の親を預けたいと思える事業所を目指して、利用者の笑顔を大切に、安心してゆったり過ごせるケアを心がけている。食事の準備や洗濯物量などの簡単な家事を始め、個人に応じた力を発揮できる場や、趣味を活かした活動を通し、張りのある生活が送れるよう援助させて頂いています。また、健康や体力維持の為、体操や運動の時間を設けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、「ご利用者さまのお気持ちを最優先に」の理念を掲げ、利用者の自主性を大切に尊厳ある生活が送れるよう支援を行なっている。利用者の意向を受け止め、職員間で情報共有を図りながら利用者との信頼関係が築けるよう取り組んでいる。

地域との交流では自治会に加入し、地域の祭りや清掃活動に参加し関係作りに努めてきた。周囲には大学、専門学校があり、学生との交流も図られている。現在はコロナ禍でこうした交流が困難な状況にあるが、利用者との散歩で自然な交流や運営推進会議や地元職員から地域の情報を得るなど、コロナ禍でできる交流に努めている。家族には担当職員が毎月利用者の生活の様子を手紙で伝え、入居後のつながりや家族の安心感につなげている。

利用者は食事、入浴、排泄等の生活動作で持てる力を発揮し、食事の準備や後片付け、清掃や家庭菜園の作業などこれまでの生活の中で培われた力を発揮する場面が設けられている。職員は利用者の様子を見守り、利用者が無理なく、気持ちよく生活できるようその方であった対応ができるよう、情報交換や話し合いを重ねている。職員の体制も新しく整備されたところであり、今後さらに利用者への対応が充実されることが期待される事業所である。

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念を基本に、事業所独自の理念を掲示している。理念に沿って、サービス提供できるよう職員一同実践している。新入職員にも理念の説明している。	開設時に、法人の理念を基に事業所の理念を作成した。職員の入職時には書面で理念を説明している。職員は日々の関わりの中で笑顔や温かい言葉かけを意識し、「利用者の気持ちを最優先し、利用者の尊厳ある生活」を実現すべく支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入しているが、コロナ禍で、主だった交流はできていない。近所を散歩して、自宅のお花を見せてもらいながら、家人と話をさせてもらったりしている。	自治会に加入し、回覧板や地域の草取り作業に参加している。コロナ禍以前は地域のお祭りに参加したり、事業所で地域の方を招いてイベントを行ったり、地元の学生と交流を図っていた。現在は運営推進会議や散歩など、コロナ禍でできる地域とのつながりに努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会、民生委員、地域包括から運営推進会議を通して、利用者様の事例などをあげ認知症の実態を理解していただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍で参集での会議は行えてなかったが、昨年の12月に久しぶりに参集で行えた。活動や利用者様状況を資料を作成し報告している。それについての、評価もいただいており、意見交換、情報の共有も行っている。	新型コロナウイルス感染状況に合わせて、書面や対面での会議を行なっている。書面での開催時には、意見を寄せて頂けるよう返信封筒を同封している。事業所の様子により伝わるよう写真を活用するなど工夫を行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括主催の勉強会には、極力参加するようにしている。包括からは、毎回運営推進会議に参加していただき、まいらいふの現状について把握していただいている。	地域包括支援センターの職員に運営推進会議の委員になってもらい、事業所の様子を伝えている。利用者の対応について相談に乗ってもらうなど、協力関係が築かれている。また、市の担当からはメールで研修や感染症情報などを受け取っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は、夜間のみである。玄関に行って開ける利用者様もいるが、直ぐに静止するのではなく、見守り重視で利用者様のペースに職員が合わせるようにしている。そのまま一緒に外に出て、外の様子を見てもらったりしている。	2ヶ月に1回「身体拘束適正化委員会」を開き、職員の言葉遣いや対応について振り返りを行なっている。スタッフ会議や内部研修では、身体拘束についての基本的なことや、スピーチロックなどを日々の関わりと結びつけながら担当職員がテーマ設定して学ぶ機会を設け、拘束のないケアに取り組んでいる。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的暴力は、もちろんのこと、言葉の暴力も虐待に繋がる可能性もある事を理解していただいている。常に言葉遣いには注意し業務に取り組んでもらっている。	年2回虐待についての研修を行っている。利用者に打撲などの外傷が見られた場合は、職員間で要因を分析し、対応の統一などを図っている。管理者は職員のストレスにも配慮し、日頃の声掛けや面談の機会に話を聴き、体調面も含めたサポートに努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要性が生じた場合は、地域包括支援センターに相談したり、研修に参加し知識を得るようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、十分な説明をして疑問点を確認してから捺印してもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会や受診介助、支払い等で訪問された時に、日頃の様子を伝えていきます。毎月、家族あてに、居室担当者が手紙を送付している。	利用者には日々の会話の中で意見を聞き、外出や食事の希望、家族に電話したいなどの意見を生活に反映させている。家族には電話や受診等で来訪の際に意見を聞いている。また、居室担当職員が毎月手紙で利用者の様子を家族に伝え、意見があれば電話で寄せてもらうよう働きかけている。面会への要望や広報誌への写真の掲載希望などの意見があり、意見を取り組みに反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、スタッフ会議を行って、意見交換を行っている何でも言えるような雰囲気作りにも心掛けている。	職員の意見はスタッフ会議や日々の職務の中で常に聴いている。利用者への対応や新人職員への指導について等、出された意見を運営に反映させている。法人内で月1回管理者会議が開かれており、事業所内で判断できない内容については管理者を通じて法人代表に必要な相談がされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者会議を通じて、職員の仕事ぶり等を聞いてこられるので、その都度伝えている。職員からの相談があった時は、代表者に報告し助言をいただいている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	講師を招き、法人全体で行っている、キャリアパス研修で職員のスキルアップに繋がっている。実務者研修の受講費用は、法人が全額補助制度があるので、多くの職員が活用している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ケアマネも兼務しているので、地域のケアマネ対象の勉強会には参加して、交流、情報交換を行っている。得られた情報は、スタッフ会議で職員に伝達している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談は、生活歴、現在の生活状況、要望等を十分に確認している。入居前には施設を見学していただき、施設を知っていただき、入居しやすい環境作りをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族からは、今困ってる事や不安、要望を十分に聞き取り、信頼関係を築き安心感を与えるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の意向をしっかりと把握し、安心してサービスを利用してもらえるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に暮らすという意識を持ち、家事活動を通じて、出来ることの役割を持っていただくことで、職員と対等な関係性を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来所された際に、生活の様子を伝えて情報を共有している。毎月のお手紙でも生活の様子を伝えている。家族に出来ることは、お願いしている。	利用者が家族とつながり、これまでの生活の継続が図られるよう、受診やなじみの理美容室への同行などの協力をお願いしている。利用者から不安な気持ちや自宅への思いが聞かれた際には、電話で家族と話してもらうなど、精神面でも共に支えてもらっている。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族と外出、外食など屋外に出ていただく事も大切にしています。床屋なども、家族が連れて行けるようなら、行きつけの床屋に連れて行ってもらっている。	利用者の馴染みの人や場所については入居時に家族から聞き取りを行ったり、利用者から日々の会話の中で確認している。コロナ禍のため外出は難しい状況だが、利用者の馴染みのスーパーのチラシや、私物の写真を一緒に眺めながら会話を楽しむ機会を設けている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性や性格を把握し、座席の位置なども配慮している。家事手伝い等で、協力し合えるように職員も介入するようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了時には、いつでも、どんなことでも気軽に相談して下さいとお伝えしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者ごとに担当者がいて、会話、表情、行動から利用者の思い、意向を汲み取るようにしている。それらをスタッフ会議で、意見を出し合いケアに活かしている。	利用者の思いや意向は、会話や表情、行動などから受け止めている。受け止めた意向は個別の経過記録や職員の連絡ノートに記載し、職員間で情報共有している。また、カンファレンス等で話し合い、意向にそった支援につなげている。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	申し込みや契約時に、生活歴や生活の状況などを詳細に聞き取りを行っている。居宅支援事業所のケアマネからも情報提供してもらっている。	入居時に、家族や担当の居宅ケアマネジャーから生活歴について情報を収集している。また、利用者からも日頃の会話の中でこれまでの暮らしについて話を聴いている。事前面接ではできるだけ自宅を訪問し、利用者の生活環境の把握に努めている。把握した情報については日々の経過記録や連絡ノートに記載している。	事前に聞き取ったり、入居後の関わりの中で得られた生活歴等の情報をまとめるための、統一したシートを準備するとよいのではないかと。新しい情報を追記したり、職員間で情報の共有をしやすくすることで、利用者のこれまでの人生が把握しやすくなり、利用者への理解がより深まり、支援の充実につながることを期待される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活リズム、心身の状態を把握し、変化に気づけるように観察している。申し送りや連絡ノートで情報の共有はできている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月居室担当者がモニタリングを行い、必要時には、本人や家族から要望を聞き、カンファレンスを行い介護計画に反映している。	毎月居室担当者がモニタリングを行い、スタッフ会議でモニタリングの内容を確認し、利用者や家族の意見を取り入れながらケアプランの見直しを行っている。訪問看護師などからも利用者の状況に合わせて意見を聞き、ケアプランにその意見を反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケア内容、気づき等は個別に支援経過や連絡ノートに記載して情報共有を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の状況により、必要に応じて受診や外出の受診を行っている。スーパーの買い物に同行してもらったりと、これまでの生活の継続に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のイベントに出来る限り参加したり、近くの公園に散歩に出掛け、近隣の方と交流させてもらっている。個々の嗜好や要望に応じて行事を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望する、かかりつけ医へ家族受診をお願いしている。緊急時は、家族の了解を得て職員が対応している。必要に応じては、医師宛てに情報文書を作成し医師に伝えている。	基本的には希望する入居前のかかりつけ医を継続し、緊急時以外は家族に受診の同行をお願いしている。必要時には、訪問看護師にかかりつけ医宛の医療連携表を記入してもらい、必要な医療対応が確実に受けられるようにしている。受診時のかかりつけ医からの指示等については事業所で聞き取り、連絡ノート等に記録することで、かかりつけ医、家族、事業所との間で利用者の情報共有が図られている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回、訪問看護から来所していただいている。利用者の気になることや、伝えたいことをノートに記載しておいて、看護訪問時に相談、支持を受けている。24時間オンコール体制で随時連絡もできる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した場合は、現在の状況確認のため医療機関やご家族に電話連絡を取り情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、重度化した場合の対応についてご家族に説明しご理解をいただいている。ご家族の意向を尊重し出来る限りの対応を心掛けている。時期をみて、特養への申し込みも相談させていただいている。	入居時に、契約書により重度化の際の対応について説明している。事業所には医療職を配置していないため、常時医療を必要とするようになった場合や食事量の減少やトイレでの排泄が困難になったなどの状態変化に応じて家族と今後の対応について話し合いの場を設け、次の生活の場について検討している。	重度化の対応については、契約書の内容だけでなく、より具体的に、詳しい目安となる事項を口頭または文書にて明確に提示されることが望まれる。家族も見通しを持って段階を踏んで準備ができ、安心して過ごせることにつながると思われる。
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や緊急時はマニュアルを使用している。応急手当普及員講習を受けた職員より救命講習、AEDの取り扱いの訓練を受けている。	急変時にはマニュアルに沿って対応を行なっている。AEDや救命講習、感染症の対応などで内部研修を行なっている。訪問看護師からは随時必要な処置について指導を受けている。事故報告をもとに要因の分析や対応の妥当性について検討し、事故の予防に努めている。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行っている。消防署員から指導・助言をしてもらっている。新人職員には、必ず参加してもらい緊急時の電話対応や消火器の使い方を学んでもらっている。	年2回、防災機器の点検日と合わせて避難訓練を行なっている。火災時には近隣職員が、地震では震度5以上で同法人の他施設職員が駆けつける応援体制がつけられている。備蓄品については水や食料の他、石油ストーブや発電機の準備がある。	コロナ禍ではあるが、地域の防災の取り組みについて情報を収集し、地域の防災訓練への参加や地域との災害発生時の協力体制を構築し、利用者の命を守り、安心・安全につなげることが期待される。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は利用者への言葉遣いや態度について、尊敬の気持ちを持って接している。同じことを何度も聞いてくる利用者にも、否定的な言葉を使わず、きちんと説明して不安を取り除くように対応している。	理念にもある「利用者主体」を意識した言葉遣いや対応を心掛けている。居室の入室にも利用者の許可を得ている。写真の使用について了解を得たり、個人情報とは外部に持ち出さないことや個人情報が記載されている書類等はシュレッダーにかけるなど適切に扱っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の話を傾聴し、その人の思いを感じ取り、本人が意思を伝えやすいような言葉かけに努めている。食事やおやつ、外出等も希望を伺うようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活ペースを大切にして、家事活動を提案したり、ゆったり話をしながら、その時々々の希望を聞き出している。レクリエーションも無理強いせず、本人の意向を重視している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族から、季節ごとに衣類を持ってきていただいている。入浴時に着たい服を職員と一緒に選んでいただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブル拭きや、簡単な調理の盛り付け、食パンのジャム塗りなど、出来ることをお願いしている。	献立は法人の管理栄養士が作成しているが、利用者の希望を取り入れ随時変更が可能である。コロナ禍で現在外食は控えているが、おやつのお弁当を注文するなど楽しみを設けている。簡単な調理や盛り付け、後片付けなどで利用者の力を発揮してもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事摂取量は、チェック表に記入している。むせのある方には、トロミの使用や刻み食で提供している。毎月、特養の管理栄養士が訪問し、相談したりアドバイスを受けたりしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは、声掛けしながら本人に行っていただいている。出来ないかたは職員が介助している。義歯の方には、洗浄液を使用している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立で布パンツを使用されてる方が多いです。トイレの訴えがない方は、排泄パターンに合わせて声掛けし誘導を行っています。	布パンツを使用し自立している方が多いが、状態変化に対応できるよう排泄の状況を見守っている。声掛けが必要な方には排泄チェック表で必要な時間を見極めながら支援を行ない、清潔保持と、本人の安心感につなげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品や、食物繊維の多い食事の工夫や、十分な水分補給に努めている。天気の良い日は、散歩も取り入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回の入浴を基本としているが、受診日やお出掛けの前日に、入浴していただくなど柔軟に対応している。入浴剤も使用して、入浴を楽しんでいただいている。	週2回の入浴が基本だが、利用者の状況や意向に応じて随時対応している。入浴に気持ちが向かない方は時間や日を変えたり、抵抗感のない誘い方を工夫し、気持ちの良い入浴につなげている。同性介助の希望は特にないが、希望があれば対応できる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の一人ひとりの生活習慣やリズムに合わせて居室で休んでいただいている。廊下のソファも自由に使ってもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々のファイルに処方箋を綴じている。内服の状態についても観察、記録を行い、主治医にも報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味や特技を活かせるように支援している。それらをサービスに反映させ、楽しみや張り合いになるように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	周辺の公園に、天気の良い日は散歩に行っている。食材の買い物に、着いて行きたいと言われる方には、同行してもらい一緒に食材選びをしていただいている。	周囲の散歩や隣接の畑作業で気分転換を図っている。新型コロナウイルス感染者が減少した際には、ドライブで海や温泉の足浴などを楽しんでもらった。定期受診の往復も家族との貴重な外出の機会となり、積極的に支援を依頼をしている。事業所の敷地内にはベンチを置き、外気浴をしたり、夏には花火を楽しんだ。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様よりお金を預かり、日用品を購入している。職員と一緒に買い物に行き、希望されるものを購入していただく事もある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙の送付などは自由にできるように、対応、支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアには季節に合った飾りをして、季節感を感じていただけるようにしている。落ち着いた環境提供できるように、明るさ、テレビの音量、職員の動作、声のトーンにも配慮している。	建物内においても季節を感じてもらえるよう装飾を工夫している。食事席のほか、ソファなどを配置し、利用者個々が落ち着ける場所が作られている。清掃は主に夜勤者が行うが、日中のモップかけなどで利用者にも力を発揮してもらっている。また、利用者の体感に応じて室温調整し、心地よく過ごしてもらえるよう配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った方々と会話ができる座席配置にしている。廊下のソファで、談笑されたり、横になって寛ぐ方もいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、使い慣れた家具、身の回りの物、写真などを持参していただいている。できる限り自宅での生活に近い環境で過ごしてもらえるようにしている。	家族の協力を得ながら私物を持ち込んでもらい、居室づくりを行なっている。収納ケース、仏壇や位牌、ラジオなど利用者個々に必要な私物が持ち込まれている。タンスの角を保護したり、中身がわかるよう表示するなど、生活のしやすさや安全に過ごせる工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレには、張り紙をして、混乱のないようにしている。夜間、トイレに行かれる際も、センサーで灯りが点き安全面にも配慮している。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				